

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	一般財団法人北上市文化創造	
施 設 名	北上市文化交流センターさくらホール	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	7,003	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	260	(千円)
普及啓発事業	6,743	(千円)

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	古典芸能への興味関心育て事業：歌舞伎公演+レクチャー+関連取り組み	2019年 4/21、5/18、6/29、7/9	【黒沢尻歌舞伎さくら道中支援】 演技、他：黒沢尻歌舞伎保存会 【歌舞伎の知識型ワークショップ】 講師：葛西聖司（古典芸能解説者） さくらホール職員 【歌舞伎公演】 演目：『松本白鸚・幸四郎 襲名披露口上』『双蝶々曲輪日記〈引窓〉』他 出演：松本白鸚、松本幸四郎、市川猿之助、他 舞台：松竹大歌舞伎舞台スタッフ	目標値	1,970人
		北上市内、さくらホール大ホール、小ホール、前沢ふれあいセンター	実績値	1,348人	
2	子どもの舞台芸術体験事業：さくらホール KIDSART	2019/4/9～2020/3/1 2019/8/10～11	【講師】＜音楽＞菅家奈津子(メゾソプラノ)、御園生瞳(ピアノ) ＜ダンス＞山田うん(振付家・演出家・ダンサー)、アシスタント(Co. 山田うんダンサー)：川合ロン、黒田勇 ＜地域講師＞名須川明子(ピアノ、歌唱指導)	目標値	640人
		さくらホール小ホール 東大寺金鐘会館	実績値	640人	
3	クラシック音楽普及のためのコンサートとアウトリーチ事業	2019年10/30～31、 2020年1/28～29、 2/16～17	【Vol.1】新倉瞳(チェロ)・佐藤卓史(ピアノ) 【vol.2】森岡有裕子(フルート)・森岡聡(ヴァイオリン)・永田美穂(ピアノ) 【vol.3】立花正子(ソプラノ)、渥美史生(バリトン)	目標値	555人
		さくらホール小ホール 北上市内小学校	実績値	555人	
4	さくらホールパフォーマンスしょうげき！公演 Vol.1 Co.山田うんダンス公演及びアートコネクション事業	2019年7/16、9/24、 10/7、10/8、11/5、 11/8、11/9、11/10	演目：新作「プレリュード」・「あたらしいししおどり」 振付・演出・構成・美術：山田うん 出演：Co. 山田うん	目標値	260人
		さくらホール小ホール 利根山光人記念美術館、口内小学校、他	実績値	160人	
5	オリジナルダンス創作による地域行事「盆踊り」活性化協働事業	2019/8/11	【出演】コンドルズ、ブラックボトムブラスバンド、しんまち～ず(地元バンド)、川岸かっぱ太鼓(地元和太鼓団体)、幸の会、やよい会、他	目標値	1,550人
		さくらホール野代会場	実績値	1,448人	
6	みんなART おたがいさまライブ事業	2019年7/28、 2020年1/10～11	【vol.1】菊池葉子(メゾ・ソプラノ)、山口麻衣(ピアノ)、地域の俳優 【vol.2】シアターオルトよみしばい「ブレーメンの音楽隊～グリム童話より～」	目標値	250人
		さくらホール小ホール 北上市内地区公民館	実績値	254人	
7	北上市青少年鑑賞事業	2019/9/4	出演：BLACK BOTTOM BRASS BAND(7名)	目標値	1,907人
		さくらホール大ホール	実績値	1,849人	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>さくらホールの社会的役割は、質の高い芸術の鑑賞・体験の機会の提供、住民自らの創造的な文化活動への支援などを推進し、心豊かな地域社会の形成に寄与することである。具体的なビジョンと達成するための事業の組み立ては、整合性を保っている。これらの事業組み立ては、次のとおり北上市の政策及び地域課題を踏まえ、当ホールの強み、特徴を生かしたものである。北上市総合計画 2011～2020（後期基本計画）の基本理念は「自ら創造し、いきいきと支えあい、笑顔咲きほこるまち」とされ、一人一人がまちづくりの主役であり、まちづくりの原動力となるのは市民や地域からの発想であり、このまちへの誇りと愛着を持ち未来を見据えていくことが、住みよいまち、理想のまちづくりにつながるという北上市の基本理念と、文化芸術の多様な価値により、自己実現の機会を提供して、あらゆる人々の創造性を育むというさくらホールの社会的役割とビジョンは合致している。</p> <p>施設の強み、特色は大中小ホールの3つの劇場機能と、日常的な文化芸術活動や地域コミュニティのためのアートファクトリーと称する21もの練習室、会議室を備えている点が挙げられる。アートファクトリーの平成31年度稼働率は91.2%とほぼフル稼働していることから、多くの市民に利用され、地域拠点として確立しているといえる。また、日常的な文化活動と創造性を発揮する文化芸術の舞台創造をつなぐ専門的人材である舞台技術職員とアートマネジメント職員がそれぞれの役割を果たし、さくらホールに集う年間利用者約28万人（5年間平均）を支えている。</p> <p>総括すると、社会的役割や地域の特性等に応じて組み立てた助成対象8事業を含む令和元年度自主事業23事業20公演105回を実施することができた。但し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、普及啓発事業④の発表会と、人材養成事業①と普及啓発事業③の一部で2、3月に予定していた小学校、社会福祉施設及び県立病院でのアウトリーチ3回を中止せざるを得なかった。その事業に登録している地域の声楽家、ピアニストが出演する“うがい手洗い”を呼びかける動画を録音、撮影、編集し、インターネットを通じて発表し、音楽の共感力による感染予防対策及び地域在住音楽家の支援を行い、貢献することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>各事業の取り組み成果は単一的ではなく、それぞれの観点から多くの意義が見受けられ、相乗効果をもたらしているものであり、事業計画全体を通して、それぞれの意義が継続して認められている。</p> <p>すべての事業において、文化的意義である創造力と感性を育む機会を提供し、地域住民の鑑賞活動及び文化芸術活動の拡大につなげることができた。特に、普及啓発事業③では、集客のしやすい「名曲」やアンコールピース中心の演奏会が多い地方の現状を改善し、演奏家自身の音楽的解釈や文化芸術に対する熱意や誇りなどのトーク構成が評価され地域に定着している。今までの延べ51組の演奏家との制作は、職員の資質を向上させ、質の高い公演実施の好循環を生んでいる。</p> <p>社会的意義としてはアウトリーチ事業を継続的に実施し、プログラムを受ける児童、教員だけでなくその親などとの交流や理解も深まり、劇場が地域の基盤となることに貢献している。アウトリーチ事業と連携して地域の演奏家を養成し、社会的な活躍の場を提供し、地域の多様性や豊かさをつくる人材養成事業を第3期として展開し、地域の演奏家のネットワークを構築しつつあり、社会的意義が継続的に発展している。また、様々な理由で鑑賞が難しい住民のために「お互いさま」のコンセプトを示す普及啓発事業⑥は個々人が共に生きる地域社会の基盤を形成するものであり、社会包摂の観点からも、有意義である。</p> <p>経済的意義は助成による充実した事業実績が県内外に広く認知され、民間興行等の貸館催事が増加している。また、東北や全国大会レベルの各種大会、コンテスト開催が増えることで市民活動も活性化。施設稼働率や来館者数の増加がプラスに作用し、財団職員のみならず施設の安全管理に携わる保守点検業者や清掃、警備、レストラン等の雇用を生み出し、劇場を中心とした経済圏を支えていると言える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■人材養成事業の目標、指標設定の考え方は次のとおりであり、目標を達成できたといえる。

1. 【地域の演奏家の発掘】一般公募の研修会を実施し、事業理念、アウトリーチの意義、模擬アウトリーチ実演、実施説明等を行った。オーディションには2組3人の参加があり、少数ではあるが事業に参加する地域の演奏家を発掘することができた。
2. 【地域の演奏家の育成】全国的に活躍するプロデューサーに事業アドバイザーを依頼し、研修会を4回実施した。2組の演奏家が小学生を対象とした音楽アウトリーチプログラムを制作上演することができた。専門的な外部評価の指標として事業アドバイザー(研修講師)からの評価を今回から導入したが、実績としてアーティスト及びプログラムへの評価が、2組とも6項目の5段階評価で3以上を獲得し、肯定的な評価だった。
また、もう一つの指標として、アウトリーチ参加者からの肯定的な回答が80%以上と設定したが、「ぜひ継続したい」「できれば継続したい」の回答が100%だった。
3. 【地域コーディネーター(アートマネージャー)の育成】地域コーディネーターとして職員が演奏家のプログラム試演と修正にアドバイスを繰り返し、プログラム制作能力を養った。2組の演奏家それぞれに職員が各ホール1名、2名ずつ担当し、2グループに分かれて制作した。
地域の現状に即して目標を設定したが、指標となる事業アドバイザー(研修講師)からの評価は、6項目の5段階評価で3以上を獲得、達成率は73%だった。また総評として、「ホール職員として地域コミュニティと演奏家を結びつけることに意識をもたせたことにより、より広い文化政策的な視点の獲得につながる。」とのコメントを得た。
4. 【次世代の地域を支える人材の育成】音楽のアウトリーチを北上市内の小学校で4回実施、118人の児童が鑑賞した。教員へのアンケートでは、児童の表現力や感受性を育むことに効果があるという回答があった。
5. 【多様性のある地域づくり】地方においてもプロの演奏家が活躍する地域づくりを推進するため、演奏家の活躍の機会を提供する。2組の地域の演奏家をオーディションで選出し育成することで地域づくりに貢献することができた。指標の「ホール以外から演奏家にもたらされる出演依頼が増える」に関しては、次年度のアウトリーチ先公募で申し込みを受けることができた。

■普及啓発事業の目標の考え方は主に下記の5項目とした。定量的な指標は継続事業の実績に基づいて設定し、定性的な測定方法は鑑賞者、アウトリーチ受け入れ先の教員対象等のアンケートや事業参加者関係者との意見交換、ヒアリング等を取り入れている。アンケート項目は主に、新規顧客づくりのプロセスがあるか、創造性が発揮されているか、意識変化が生まれているか等を設定し指標に盛り込んでいる。目標は概ね達成し、成果をあげている。

1. 【機会提供】多種多様な機会を提供し達成できた。全57回(公演13回、講座等38回、アウトリーチ6回)
2. 【関係構築】事業③では、アウトリーチ先の教員対象にアンケートを実施し、継続を希望する回答は100%で、成果や必要性の認識が高まったといえる。
3. 【社会包摂機能強化】該当6事業で、教育機関や社会福祉機関等と連携し、児童や障がいがある方、遠方の地区などを対象に合計1,255人が親しんだ。事業③⑥でアウトリーチを市内小学校4校と学童保育所2カ所対象に、合計6回実施し合計282名が参加鑑賞し、音楽や読み芝居に親しんだ。
事業⑥では鑑賞しにくい子育て世代、障がいのある方、高齢者やその他さまざまな配慮があることでホール鑑賞を楽しめる幅広い年代、多様な方々に向けた2公演を制作した。事業⑦では、特別支援学級や特別支援学校、障がい者支援施設利用者を招待するなど、2事業で合計474人が鑑賞できた。
4. 【創造性、多様性の提供】鑑賞及び参加者の満足度は全7事業平均で、82.3%だったが、そのうち4事業で90%以上の高評価を得た。事業③では、アウトリーチ先の教員対象にアンケートを実施し、「アウトリーチにより良い効果や影響を認識できた」等の意識変化が見られた。
特に事業④⑤では、アーティストとのパートナーシップにより、ダンスや音楽を通じて、人と地域を活性化できる社会的価値を市民に提供できた。
5. 【交流促進】事業②で音楽を通じた地域交流として、奈良県で開催された交流演奏会に参加し、同年代の児童との新しい出会いにより自分自身、北上を改めて知る機会になった。
事業④で、ダンスアーティストと地域の郷土芸能、絵画を体験しあい、新しい作品が創造されることで、相互に発見があり必要性を実感してもらえた。
事業⑤では、地域に根づいている手踊りの楽譜は消失していたが、プラスバンド演奏するために関係者との交流を通じて、書き起こすことができ、文化の再現につながった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

■人材養成事業

人材養成事業は1事業の実施である。助成対象事業費の実績は、当初の要望額に対し、実績額の要望比は93%で、概ね計画通りに予算執行できた。連携による経費の削減や事務の分担を実現している。対象経費における収入額の割合が要望時31.9%に対し、実績では34%であり、目標よりも大幅な変更なく実施することができた。

事業期間はおおむね当初の計画のとおり2019年9月～2020年2月で、演奏家オーディション、研修、プログラムづくり、アウトリーチを実施した。事業期間は6か月間で比較的長い期間をかけて取り組むことで、「演奏家のプログラムの構成力やコミュニケーションの能力の成長が明らかであり、コーディネーター人材のプログラムづくりのノウハウの蓄積、能力の向上に期待できる」と事業アドバイザーからの評価を受けている。令和2年3月のアウトリーチ2回がコロナウィルス感染拡大防止のため実施できなかった。

地域の演奏家と地域コーディネーター人材の両方を育成することで、地域課題である地方が演奏家の派遣を大都市圏に頼り切る構造の解決に向けて、より効率的に住民が気軽にクラシック音楽の演奏に触れられる環境整備を進めることができた。

■普及啓発事業

普及啓発事業は7事業の実施である。助成対象事業費の実績は、当初の要望額に対し、実績額の要望比は83.85%で、概ね計画通りに予算執行できた。また、対象経費における収入額の割合が要望時43.2%に対し、実績は54.3%であり、改善し概ね目標通りとなった。その中でも事業費の差異があったものとして事業③「子どもの舞台芸術体験事業」で、音楽を通じた地域交流の取り組みで、行程の効率的な変更や参加者実績に応じて旅費交通費が減少した分が挙げられる。その他は経費削減の結果であり、適切な予算設計、契約事務及び執行が出来ている。

事業期間の設定においては対象者、関係団体とのスケジュール調整を重視している。子ども対象事業であれば、幼稚園、保育園、小・中・高校の年間スケジュールや部活動の大会日程、農繁期や降雪量なども考慮し、対象者が参加しやすい日程や時間を設定してできるだけ多くの参加者を得るように設定している。

公演の魅力を発信する講座は公演との連関を重視して文化芸術への興味関心を増幅させる効果の高い内容を計画した。子どもの舞台芸術体験事業の講師、山田うんさんが主宰する「ダンスカンパニーCo. 山田うん」の公演を実施し、第一線で活躍する講師の作品を、体験事業に参加する小学生が保護者と鑑賞する機会を設け、体験事業と公演が連関した一過性ではない取り組みを行っている。

事業④「パフォーマンスしょうげき！公演」の計画で、出演者によるアウトリーチ2回を予定していたが、作品の創造性を高めるため、クリエイション日程を優先して増やしたため実施しなかった。アーティストのクリエイションと市民への普及活動のバランスに一考を要したが、事業目的により判断した。

アウトリーチや盆踊り事業ではホール外その他施設や団体との連携や協働によって実施し、興味の如何を問わずより多くの市民が文化芸術に触れることのできる環境を整備することができた。効率性の観点では地域の演奏家を登用することと、第一線で活躍するアーティストとの事業を実施することで得られる効果を事業の特徴に応じてバランスを取りながら実施している。

以上のことから、前述の妥当性、有効性において示したアウトプットに対して、事業期間と事業費が適切であり、コロナウィルス感染拡大防止のため中止した部分を除いて当初の計画通りに実施できたと考える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当ホールは、地域の文化拠点として市民の文化芸術活動を専門のスタッフが支援し、第一線で活躍し、創造性に富むアーティストとの出会いを提供することで、創造活動の好循環を生み、まちの文化広場としての機能を最大限に発揮した事業を実施している。

■専門スタッフによる市民活動の支援

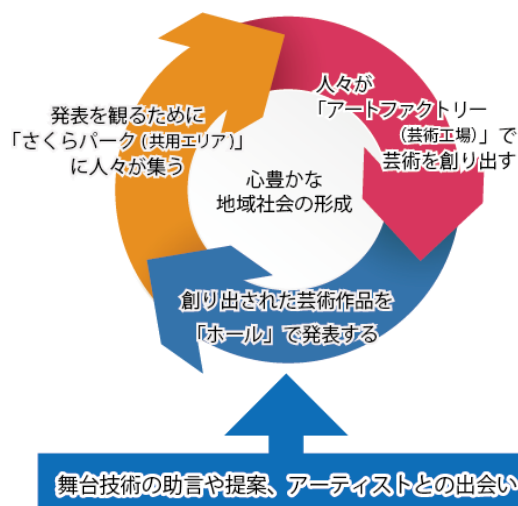
・市民の文化芸術活動を支援、育成するために、舞台技術員による専門的な助言や提案を行っている。舞台技術責任者は財団のプロパー職員であり、プロパー舞台技術職員3名と常駐の委託技術員4名が、市民の文化芸術活動支援とアーティストとの専門的なスタッフワークに幅広く対応し、ホールと市民の創造性に責任を持って対応している。岩手県内公立文化施設協議会の技術研修会の企画運営を担当し（平成24年度より毎年）、岩手県内の舞台技術の向上に取り組んでいる。また、舞台機構について安全性の確保と不具合等による支障を起こさないための更新計画を作成し、市と協議しながら実施している。

・アーティストと市民をつなぎ、文化芸術による交流で日常に新たな可能性を創造するために、自主事業計画はアートマネジメントの責任者である財団のプロパー職員が担当している。地域性を理解し、地域住民のニーズをとらえた独自の事業展開を実施している。

■アート NPO との協働

アート NPO と協働して公演支援業務（フロントスタッフ、託児スタッフ、情報誌の送付、アンケート集計、等）、イルミネーション事業を実施。ホール内のサポーターズルームに会員が集い、市民の活動拠点として機能している。活動を通し社会参加に関わることによるシビックプライドの醸成にも繋がっている。

■ユニークな施設の特徴を生かす運営で市民の創造活動を活性化、好循環を生む。



「アートファクトリー（芸術工場）」という名称の21部屋から成る練習室群で市民が創造活動を行い、創り出された芸術作品をホールで発表、発表の鑑賞に集った人々がガラス張りの練習室の創造活動に感化され、活動を開始する。練習室のガラス張りの設えによるビジュアルコミュニケーションが創造活動の好循環を地域の中に生み出している。そして、施設の特徴を生かす施設利用サービスにより（年中無休365日営業、9時から22時までの開館、1時間単位、当日申込可能）、市民の創造活動を活性化している。アートファクトリーは予約がとりづらいほどの高い稼働率を維持している。（稼働率91.4%）

◎施設に対する受賞：「グッドデザイン賞2004 日本産業デザイン振興会」、「第46回BSC賞」建築業協会、「2006年日本建築学会賞作品賞」日本建築学会、「第11回公共建築賞優秀賞」公共建築協会

◎運営に対する受賞：平成29年度地域創造大賞（総務大臣賞）

以上のことから、各賞の受賞が示すように、地域資源を活用した事業実施により市民の文化活動拠点、文化芸術による交流ができるまちの文化広場としての役割を発揮することができていると考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

人材養成事業と普及啓発事業で取り組んだ8事業とバリアフリー対応多言語対応事業を組み合わせ、関連性をもって事業運営し、地域の文化芸術の発展に貢献した。

■連携による専門的な人材養成

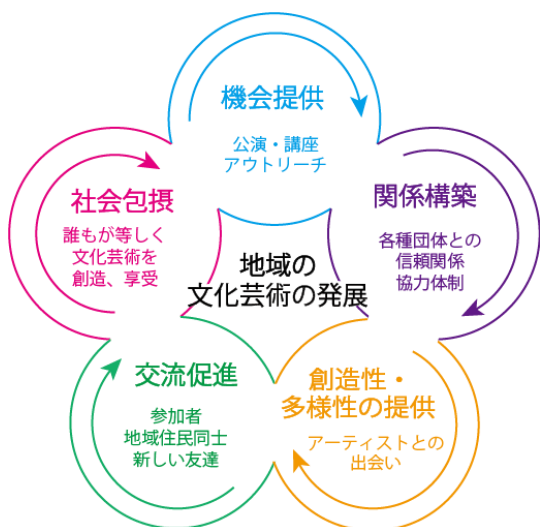
人材養成事業では、地域の演奏家と地域のコーディネーター人材の養成不足を地域課題と捉え、奥州市前沢ふれあいセンターと協働で事業を実施した。地域の演奏家をオーディションで2組選出し、第一線で活躍するアドバイザー児玉真氏（地域創造プロデューサー）を招いて研修会を実施し専門的な能力向上を図った。演奏家の社会的な活躍の場を提供し、地域において身近に演奏家が住む多様性や豊かさを創り出し、これまで養成した演奏家の在住する岩手県奥州市、北上市、花巻市の文化芸術の発展につなげている。

■地域の文化芸術の発展に繋げるホールの5つの機能

普及啓発事業では、機会提供、関係構築、社会包摂、創造性と多様性の提供、交流促進の機能を果たし、地域の文化芸術の発展を目標に事業を実施した。目標に対する達成度は有効性に記載している。

新規の事業として事業⑥「みんな ART お互い様ライブ」で、市民が等しく文化芸術に触れる環境の整備を図るため、幼児連れの家族や障がいのある市民もない市民も誰もが気兼ねなく一緒に鑑賞することのできるコンセプトの公演を設け、市民の創造性を育むことができた。これまで取り組んだ事業で関係を構築した手話通訳団体や社会福祉協議会との連携で実施することで、ホールの社会包摂機能を発揮することができた。

事業④「さくらホールパフォーマンスしょうげき！」では事業②「子どもの舞台芸術体験講座 KIDSART」の身体表現講師でもあるダンスカンパニー「Co. 山田うん」主宰の山田うんさん、川合ロンさんが、行山流口内鹿踊へ訪問しての地域フィールドワークを実施した。民俗伝統を継承する地域の担い手、ダンサーの異なる文化の担い手が交流することで両者に新しい発見をもたらし、山田うんさんは作品「新しいししおどり」を発表。行山流口内鹿踊の担い手、キッズアートの子どもたちと保護者も公演で作品を鑑賞し、アーティストの創造性との出会いで市民の創造性を育むことができた。山田うんさんは第37回（令和元年）江口隆哉賞を受賞している。



■アクセシビリティの改善

バリアフリー対応、多言語対応事業では、障がいのある方の鑑賞サポート、福祉誘導スタッフの導入により、ホールのアクセシビリティを改善した。

歌舞伎公演では、（一社）北上市国際交流協会の協力を得て、英語による同時解説サービスを提供した。様々な団体との関係構築により、より多くの市民の文化芸術へのアクセシビリティを改善し、市民の創造性を育む取り組みを実施することができた。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

■持続性を支える当ホールの特徴と財政面の強み

当ホールは、開館以来、「日常的に文化芸術活動が展開し、賑わいのある場」を目指し、その実現のため、「ファクトリー」という 21 室の練習室群を備え、そこで市民が創作活動を行い、創り出された作品を、ホールで発表し、その感動が新たな創造を生み出すという、「芸術の循環」を目指し、活動を展開してきた。

ホール内の広いフリースペースには常に多くの市民が訪れ、ファクトリーを活用した様々な文化芸術活動が常に行われており、その稼働率はおよそ 91%と高く、利用料金全体の 4 割がファクトリーからの収入となっており、平均すると毎年およそ 7 千万円の安定的な利用料金収益の確保につながっている。

また、利用料金制を導入し、その用途については、市との協定において、自主事業の実施に限定し、自主事業の事業費とそれに係る人件費に充てることとなっていること、また利用料金の減免措置がないことも、安定した独自の事業運営の継続に役立っている。

令和元年度収支決算においては、3 月に新型コロナウイルス感染拡大防止によるイベントの中止、自粛が相次ぎ利用料金は対前年を下回る結果となったが、当期経常増減額は黒字となっている。

■持続性を支える組織の特徴

当ホールにおける自主事業推進体制は、アートマネジメントを担当する財団の一般職員 5 名、舞台、音響及び照明を担当する 3 名の一般職員と常駐の委託職員 4 名で対応している。特に、舞台技術職員の常駐、強化は、市民の文化芸術活動へのきめ細かな支援や、アーティストとのスタッフワークに幅広く対応し、当ホールの特徴ともなっている。

また、毎月開催している全員が参加しての全体会議や役員と幹部職員が組織課題を共有する幹部会議を月に 2 回開催するなど、職員間の情報共有を密にするとともに、業務に関わる研修はもちろんのこと、全体会議後の OJT や、自己啓発研修に対する助成を行う等、人材育成には特に力を入れている。

■持続性を支える市民との協働

当市を拠点に活動するアート NPO 法人と協働でフロントサービス、託児サービス、アンケート集計及びチラシの折り込み等を実施している。業務のための研修等も協働で行いながら、ホール運営に参加する市民を増やしたり、活動を通し社会参加に関わることによるシビックプライドの醸成にも繋がっている。

また、多様性への対応として、あらゆる人がともに等しく文化芸術活動に親しむ環境を整備するため、多言語化やバリアフリーへの対応など、地域で活動し、それぞれ専門的なノウハウを持った団体や個人との連携により新たなサービスの創設や、新たな事業展開に道を作ることができ、新たな展開を予想させるものとなった。

(福祉誘導スタッフ、手話技能者、英語通訳者/歌舞伎公演の英語解説)

盆踊り事業においても、地域と伴に取り組むことにより、地域が自分たちの事業として、互いに知恵を出し合うレベルにまで協働することができ、今後の自主的な事業継続や事業拡大に対し、大いに期待するところである。